

10. キャンプ生活 (3) キャンプ場 (星野)

① キャンプ場

グランド・ティートン国立公園ジャクソンレイク湖畔、シグナルマウンテンのキャンプ場。その区画はキャンピングカーのまま入れる広々としたところで、テントが1張り張れるスペースと食事のための準備が出来る。米国人はバケーションを上手に楽しむようでサマータイムには混雑が見込まれるので、場所取りがとても大変。区画毎に表札のように使用期日が記された許可証を掲げているので、各人が他人様の期日を確認して回り、使用希望日を代金と共に函に入れる方式となっている。ワンサイトに1泊\$21(車1台、人員は6名まで)。早い者順で予約制は無しである。(10時には満杯、我らは場所取りの為に2人が一足早い便で飛んだ)

② キャンプ場の設備

各区画はゆとりのあるテント場。トイレ棟は水洗でシンクの設備付帯があつて、キャンプ場内には売店やレストラン、バー、土産物ストア、ガソリンスタンドなどが点在している。備品として、動物(特に熊)避け用の食糧庫としての鉄で出来た箱やゴミ箱が設置されている。各区画にはバーベキュー用の炉とテーブルが設置されており、シャワー、コインランドリーはその場所には無いので他所のキャンプ場へ行って使用することになる。



鉄製の食料保管庫



鉄製のゴミ箱

③ キャンプ生活

訳あってデンバーの空港で油と埃の臭いの床に一晩中絶えない音を耳にしてシュラフにもぐり明かした身には、その夜の静かな湖畔のテント泊りは五つ星、ナント落ち着くことか。とはいえ22時になっても真昼の明るさ、サマータイムの初体験です。予定していたテント場を移動するという話も、リーダーの話を守るように「ここで良いここが良い」と即決したのはメンバー達の歳のせいばかりではない。不満がないのです。だからB.Cは滞在中ずっと同じ場所。朝は鳥の声で目覚め、フルーツジュース、カフェ、シリアル朝食(シリウスとかシリカゲルの名称でも我がファミリー内では通じるワハハ状態でした)。

生鮮食品の入手もスーパーでOK。勿論バーベキューは大の盛り上がり。山泊りからB.Cに帰った日にはキャンプ場近くのレストランへ行った（量が多いので3人前を注文して5人でシェアしたり、4人前を7人でシェアする）。いろんな食材でつくったポトフは大人気で、食に安らぎがありましたねえ。アルファ米の人気はいまいちでした（山行中は大変重宝でしたが）。重い思いをして運んだのに残念。これは情報外の店舗が近くにあって、いい方向に裏切られた訳でして・・・皆さんの食生活は米国的でした。キャンプ場の近くには、薪や、パン、牛乳、アイスクリームなど、キャンプに有用な用品が入手出来る売店があって非常に便利。この情報は是非お知らせしたいと思う。



歩いて1~2分ほどのところにあるトイレと水道

特段の騒動が起きる事も無く、無事にトレッキングや川下りを終えて、観光に出掛けては星空を仰ぐまでお喋りの日々。だ・か・ら・6月29日にはポツンと雨が降り、直後に竜巻かと思うほどの物凄い砂嵐の洗礼を受けてしまった。ムースにある大型のスーパーでは米国人にとっては少量と思える極上肉を買って、バーベキューメニューだったのでまことに大慌てでテーブルの準備をしたものです。蚊に刺されながらビールを片手に美味しい肉を平らげた。

早朝の車道では5頭の鹿の群れと出会う。ハリネズミやリス等を見つけるのが上手な斎藤幸子さん。彼女に教えられてドコドコ？と見ても何も見つからない。この時間差はナンだろう。ハリネズミはドライバーの秋田さんでさえ「ゴミだと思った」らしい。脱帽です。自転車で走っている人は若しかして赤澤さんではないかと、自転車が来れば顔を覗き込んだりして、今、カナダ走っている赤澤さんのことを思って、すっかり日本を忘れていました。

今では北米も夢だったかと思うほど記憶が遠くなっていましたがサマータイム、時差ボケ、帰国後の猛暑で体のリズムが狂ってしまった故の不調だったと判明しました。